

長野県の埋蔵文化財情報誌



かがみちゃん

信州の遺跡

第5号

今回は、国宝、重要文化財の指定答申を受けた資料、最近発行された発掘調査報告書4冊からその成果を紹介します。また、話題の発掘調査の情報もお届けします。

特集 文化財の指定

平成26年3月18日の文化審議会で、それぞれ「国宝指定」「重要文化財指定」の答申を受けました。

国宝指定

「仮面の女神」

茅野市尖石縄文考古館



仮面の女神（正面）

この土偶は、平成12年8月23日、茅野市湖東中ッ原遺跡の集落中央部の坑に横たえたような状態で発見されました。高さ34cmと大形で完形の中空土偶の優品です。平らな逆三角形の仮面を彷彿とさせる顔面表現、ふくよかな腹部、太くどっしりと立つ脚部に特徴を持ち、土偶造形の頂点に位置づけられています。また、出土状態が明確であることも評価されました。（茅野市尖石縄文考古館）



（側面）



（背面）

重要文化財指定

「柳沢遺跡出土品」

中野市立博物館



銅鐸



銅戈（上から3番目が九州型、ほかは近畿型）

銅鐸5点・銅戈8点をはじめとする柳沢遺跡出土品。一括指定の212点（平成25年3月、長野県宝に指定）は、青銅器のほか栗林式土器・吉田式土器・土製円板・磨製石斧・石鏃・管玉など、同時代の主要な出土品です。（中野市立博物館）

ごんが 恒川遺跡群 総括編(飯田市)

ぐんが 伊那郡衙の発見



総柱建物の正倉跡

恒川遺跡群は、飯田市北部の座光寺地区、天竜川右岸の低位段丘上に位置します。昭和57年の国道153号バイパス建設に先立つ調査で、大型の掘立柱建物跡と和同開珎(銀銭)・陶硯など古代の役所に関連する遺構・遺物が確認され、伊那郡衙推定地として継続的な調査を実施することになりました。平成5年の調査では、桁行4間・梁行3間の総柱建物跡が発見され、隣接地からも同規模の建物跡が2棟並列して確認されました。総柱構造の建物が一列に並び、さらにその周辺から炭化米が出土したことから、伊那郡衙の穀物や財物を保管する倉庫群(正倉院)の一部と判断されました。正倉院跡を取り囲む溝からは瓦が出土したことから、瓦葺の正倉も存在した可能性があります。



正倉院跡の周囲の溝から出土した瓦

現在までに確認された正倉跡は、総柱建物跡が6棟、礎石建物跡が4棟、総地業建物跡が1棟、側柱建物跡が8棟あります。正倉院は長辺約215m、短辺約150mの台形状を呈し、面積はおよそ27,000㎡と推定されます。



陶硯

伊那郡衙を特徴づける「陶硯」

郡衙の施設が分布する範囲からは、前述の瓦や、「厨」・「官」と書かれた墨書土器が出土しています。特に注目されるのは陶硯の出土量で、現在までに66個体の硯と、5個体の土器の破片を転用した硯が出土しています。特に前者は、県全体の出土量の約25%を占めています。硯の量は文書実務の量に比例すると考えられますので、東山道神坂峠を越えた所に位置する信濃国の一郡衙として、伊那郡衙が果たした役割の大きさを示していると考えられます。

国史跡「恒川官衙遺跡」

遺跡群のうち、正倉院跡を中心に郡衙関連の遺構が分布する範囲の大半と恒川清水について、平成26年3月18日、「恒川官衙遺跡」として国史跡に指定されました。今後は周辺に分布する文化財を併せ、歴史ゾーンとしての活用を目指した事業の展開を計画しています。

(飯田市教育委員会)

『恒川遺跡群 総括編』2013

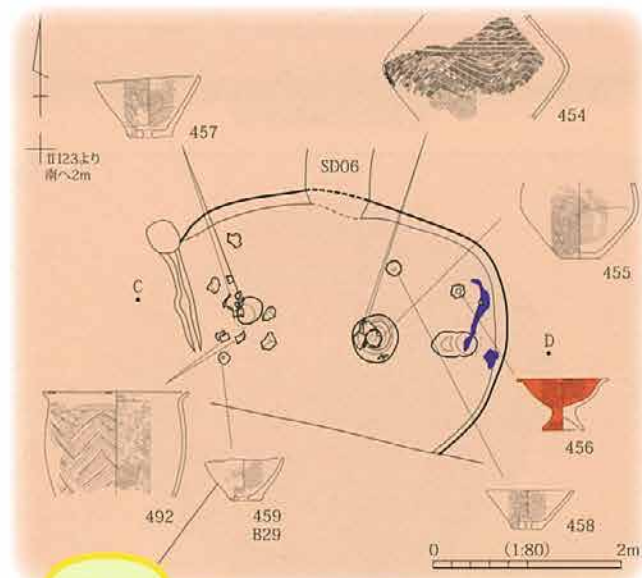
もりだいら 森平遺跡(佐久市)

川のほとりの弥生時代集落

中部横断自動車道を車で南に向かい佐久中佐都インターを過ぎると、浅間山麓から流れ下る湯川(千曲川の支流)が大きく蛇行し、進行方向の左右間近に迫ってきます。森平遺跡は、この川べりの段丘上に位置します。弥生時代中期後半の粟林式期の新しい段階(竪穴住居跡出土炭化材の年代測定の結果、約2,100年前)を主体とし、後期までつづく集落で、竪穴住居跡22軒、掘立柱建物跡6棟、土坑100基が確認されました。

森平遺跡に住んだ人々

最も古い竪穴住居跡では、底に孔の空いた土器(甑)が床面に伏せられ、その中から出土した歯に、渡来系弥生人の特徴が見出されました。また在地の粟林式土器には縄文の代わりにオオバコの穂先を回転施文したとみられる特異な圧痕もありました。さらに駿河湾地方の特徴をもつ有東式と考える壺とその模倣品の甕、千曲川の下流域で産する石材でつくられたとみられる緑色岩製の太型蛤刃石斧、扁平片刃石斧など、他地域との交流を反映した道具も多数みつかっています。



歯が出土した甑

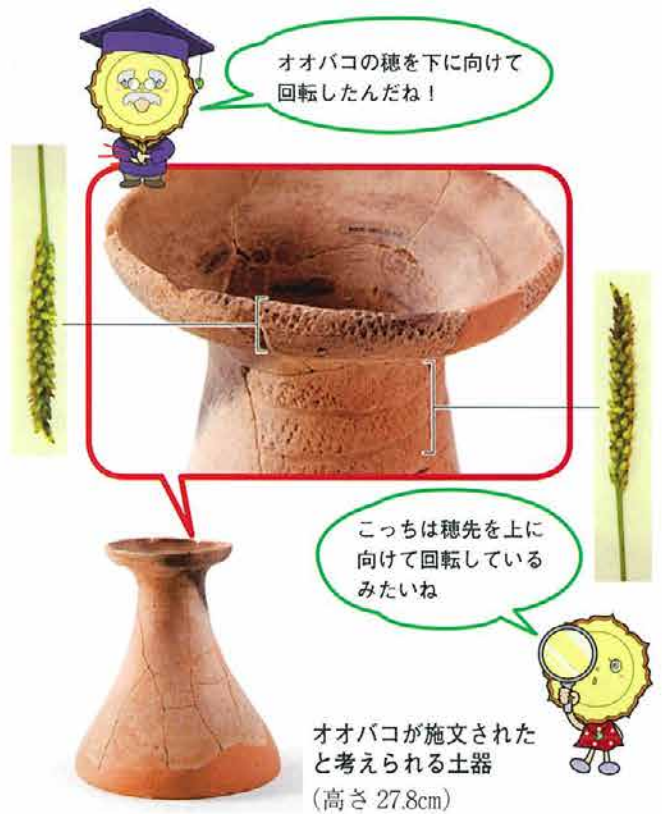
渡来系弥生人の歯が出土した竪穴住居跡(弥生時代中期後半)

情報を発信する集落

佐久平の弥生時代中期の大集落は、川と比高のある台地上に展開しますが、森平遺跡は千曲川本流から支流に入って間もなくの低い段丘上に立地する集落です。小規模ではありますが、渡来系の人、物流を示す遺物などから、他地域の情報や技術を受け入れ、周辺地域に発信する役割を果たした重要な集落であったと考えられます。

(長野県埋蔵文化財センター)

『森平遺跡 寄塚遺跡群 今井西原遺跡 今井宮の前遺跡 中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5 -佐久市内5-』2014



太型蛤刃石斧 (左: 13.5cm)

扁平片刃石斧 (右上)
柱状片刃石斧 (右下)

すほうばた 周防畑遺跡群(佐久市)

遺跡の概要

周防畑遺跡群は、JR佐久平駅近くの佐久市長土呂・塚原に位置します。昭和55年は場整備事業に伴って発掘調査され、弥生時代と平安時代の集落跡や、方形周溝墓・土坑墓などの弥生時代の墓跡がみつけられました。平成18年からは中部横断自動車道の建設に伴い、前回の調査地に隣接する場所を調査しました。その結果、弥生時代の集落跡と墓域、奈良・平安時代の集落跡などがみつけられました。

弥生時代の集落と墓域

弥生時代の集落は、現在のJR小海線を挟んだ南北方向の2か所でみつけられました。線路の北側の集落は、弥生時代後期の竪穴住居跡が密集し、奈良・平安時代の集落跡と重なって出ています。南側の集落は弥生時代中・後期の竪穴住居跡が疎らで、南西部に方形または円形の周溝墓や土坑墓・土器棺墓からなる弥生時代後期の墓域が隣接しています。この墓域では、長さ5.5cmと日本でも有数の大型のヒスイ製勾玉や三連の銅釧（銅製の腕輪）が出土しました。



弥生時代後期の墓域



ヒスイ製勾玉

奈良・平安時代の集落

奈良・平安時代の集落跡は、線路の北側のみで確認され、8世紀初めから11世紀前半頃まで存続します。付近には古代佐久郡の役所である佐久郡衙があったと推定されていることから、それに関連する集落と考えられます。獣のような足の付いた須恵器風字硯（獣脚風字硯）が遺構外から出土し、土坑からは墨書のある灰釉陶器が出土しています。さらに薬壺とみられる須恵器短頸壺や土師器鉄鉢形土器の出土は、通常集落ではないことを示しています。しかしながら竪穴住居跡からは文字を書くのに必要な硯や、身分を表す帯飾具は出土せず、墨書土器や灰釉陶器の出土もわずかであることから、郡衙で文書を扱っていたような上級の役人ではなく、さまざまな雑務に携わった下級の役人やそれより下の身分の人が住む集落ではなかったかと考えられます。

（長野県埋蔵文化財センター）

『周防畑遺跡群 中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3 - 佐久市内3 -』 2014



須恵器獣脚風字硯



須恵器短頸壺

しもじょうさん 下条川遺跡 (大桑村)

木曾谷の遺跡

大桑村は、長野県の南西部にある木曾谷の南寄り、谷を流れる木曾川流域に拓かれた地に所在します。下条Ⅲ遺跡は、この木曾川左岸に合流する伊奈川の右岸に形成された小規模な河岸段丘上に立地しています。縄文時代の土坑37基、集石遺構8基、剥片集中遺構1か所、焼土遺構と炭化物集中遺構各1か所のほか、平安時代の土坑1基、中世後期～末期にかけての土坑3基などが発見されました。



調査の様子

縄文時代早期中葉の好資料

村道の改修工事に先立つ今回の発掘調査によって、縄文時代早期中葉の押型文系 - 樋沢式土器および高山寺式土器を主体とする遺物のほか、当該期の土坑群や集石遺構群などがまとまって出土しました。狭く限定的な調査範囲であったにもかかわらず、調査事例が極めて乏しい高



押型文土器の出土した土坑

山寺式期の遺構と遺物の好資料が数多く出土したことは、大桑村のみならず、長野県の歴史を考える上で、重要な発見となりました。

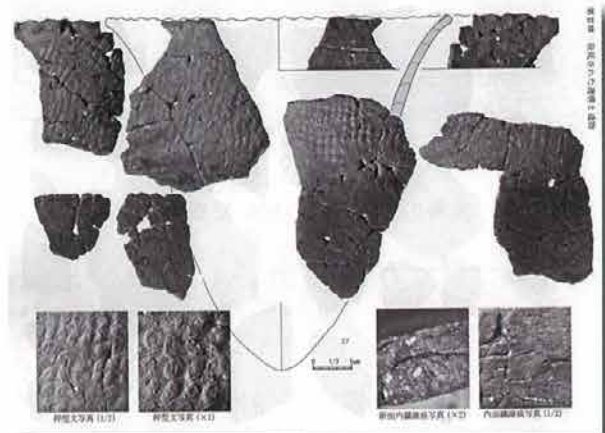
高山寺式土器

和歌山県田辺市の高山寺貝塚の出土土器を標識とする縄文時代早期中葉～末葉の土器群で、近畿地方を中心に分布します。土器は尖底(円錐形)で、楕円文様を刻んだ工具を土器の表面に転がすことによって描かれる、楕円押型文が特徴的です。

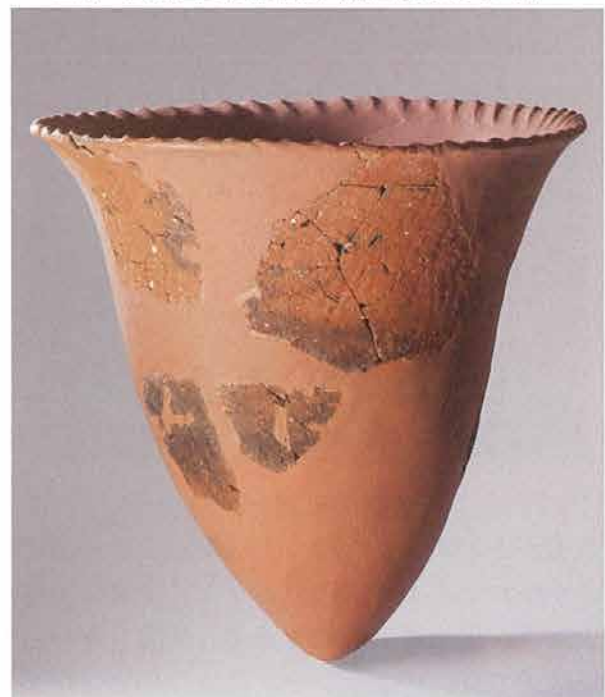
この高山寺式土器がほぼ完全な形にまで復元できたのは、長野県内では初めてです。

(写真提供：大桑村教育委員会)

『下条Ⅲ遺跡 - 村道拡幅工事予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書 -』 2013

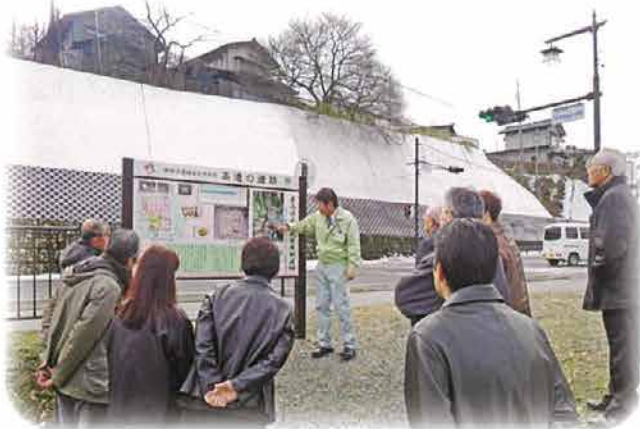


土器の実測図と文様写真 (報告書 p.68 より)



復元された高山寺式土器

伊那市高遠町に「東高遠若宮武家屋敷遺跡」の遺跡解説板を設置しました。江戸時代の絵図によれば、調査地点には高遠藩の家臣が住む武家屋敷があったことが記されていましたが、発掘調査により建物の基礎の石が部屋の形に合わせて碁盤の目のように並んで発見され、実際に建物跡が存在したことが証明されました。特に2号建物跡は幕末の藩士である「小松純八」宅の間取り図と一致し、建物の居住者も特定できました。



遺跡解説板の除幕式には、大勢の方にお越しいただきました

発掘調査では建物の土間の下から出産時の胞衣えなを入れたと思われる容器もみつき、当時の産育儀礼の様相を知ることができました。高遠にお越しの際には是非、お立ち寄りください。



伊那市高遠町に設置された遺跡解説板

■こちらのQRコードからアクセスしていただくと、看板の内容を見ることができます。



埋文キーワード

いぶつせんじょう ちゆうき
遺物洗浄と注記
～土器を洗う！記号をつける！！～

長野県埋蔵文化財センターの主な仕事を毎号紹介します。今回は出土遺物の整理作業でもっとも基本となる、遺物洗浄と注記についてとり上げます。

遺跡で出土する土器や石器は、土がついた状態でみつかります。そのあとの観察、接合などの作業のために、まず「遺物洗浄」が行われます。柔らかい専用のブラシで、丁寧に土器の表面、断面などの土を落とします。



遺物洗浄～土器を洗う～

土器がかわいたら、その土器がどこから出てきたのかがわかるように、裏側などに遺跡の記号や出土地点、出土層位などを記す「注記」を行います。最近では、注記マシンにより効率化が図られています。



注記マシンによる作業



注記された土器（裏面）

〈遺跡記号〉
A = 北信地域
B = 琵琶(びわ)
J = 鳥(じま)

「ABJ IR12 検」 = 「琵琶島遺跡 IR12 グリッド 検出面」

最新調査トピックス

長野市 栗田城跡

くりたじょうせき

所在地：長野市栗田

栗田城跡は中世栗田氏の居館跡と推定されています。今回の調査は面積 190㎡と非常に狭いですが、主郭（城の中心部）内を対象に行いました。焼土や炭を伴った土層があり、栗田城が 15 世紀前半に火災にあったことがわかりました。また東西方向に延



主郭内の調査区

調査区南半の様子。段の境に柵列が設けられる



仏像

高さ約 11cm の小銅仏。左手が刀印を結ぶのは善光寺式の特徴とされる

びる柵列や段なども確認され、主郭の構造を考える上で重要な発見となりました。当時の武士の生活ぶりがわかる出土品が発見されましたが、なかでも善光寺別当を勤めた栗田氏の居館から善光寺式阿弥陀仏の小銅仏が出土したのは特に注目に値します。（長野市教育委員会）

松本市 井川城跡

いがわじょうせき

所在地：松本市井川城

井川城跡は、信濃守護小笠原貞宗が伊那郡松尾から館を移した「井川の城（館）」と伝えられる場所です。平成 25 年度に初めて発掘調査を行い、南北 90m 以上の範囲に広がる整地層や門跡の可能性のある礎石、堀跡を確認しました。遺物としては 15 世紀代を中心とした古瀬戸や、青磁・白磁等が出土しています。



門跡の可能性のある礎石

これらの遺構が伝承にある「井河城」のものとは断定できませんが、平成 26 年度も調査は続くため、今後の成果が期待されます。

（松本市教育委員会）



堀（手前）と塚状の高まり（奥）



佐久市猿久保
のまくぼ
野馬窪遺跡VI
2013.4.30～2014.3.3 調査
佐久市教育委員会

●湯川左岸にある古墳時代から平安時代にかけての集落跡の調査。今回は9世紀代とみられる住居跡が主体で、「西」と読める黒書土器が数多く出土。



下伊那郡高森町吉田
やざわ
矢沢遺跡
2013.8.5～2014.4.25 調査
高森町教育委員会

●縄文時代後期の敷石遺構を発掘。円形や滑車形の土製耳飾りが出土。弥生時代後期では焼けた建築材の残る住居跡を調査。



上水内郡信濃町野尻
たてはな
立が鼻遺跡
2014.3.19～2014.3.31 調査
野尻湖発掘調査団

●3.8～4.6万年前の野尻湖層を発掘。ナウマンゾウの脛骨（けいこつ）化石や石器の可能性のある「流紋岩質料」とした石1点が出土。



考古学の窓

ひすい 翡翠

長野市塩崎遺跡群の平成25年度調査で、弥生時代中期の堅穴住居跡の床面からヒスイの原石が出土しました。原石は長さ約6cm、重さ約260gで、弥生時代の遺構から出土したものではありません。原石が見つかることは珍しく、割り取った剥片も出土したことから、遺跡内でヒスイ製の玉類を製作していた可能性を考えることのできる重要な資料です。

宝石の条件には、(1)色や輝きが美しい、(2)産出量が少なく稀少価値がある、(3)硬く時代を経て

も変わらぬ耐久性をもつ、という3要素があげられ、これに流行が加わります。

日本で採れるヒスイ・水晶などの宝石は、原始、古代から玉製作の技術がありました。ヒスイ製の玉の製作は、縄文時代、弥生時代、古墳時代にかけて流行りましたが、8世紀以降は途絶えたようです。ヒスイの原産地は、昭和初期に新潟県糸魚川市姫川支流の小滝川河床で原石が再発見されるまで、外国産と考えられていたようです。

(長野県埋蔵文化財センター)



ヒスイの勾玉と剥片と原石

長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課

〒380-8570 長野市南長野字幅下692-2
TEL 026-235-7441 FAX 026-235-7493
メール bunsho@pref.nagano.lg.jp

(一財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4
TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157
HP <http://naganomaibun.or.jp/>

印刷：信毎書籍印刷株式会社